

知財実務のパラダイムシフトと 次世代インフラの全貌

Patlyticsによる「AIネイティブ統合プラットフォーム」の
戦略的価値とグローバル導入への完全解説

ドキュメント種別: 戦略的マーケット・ブリーフィング
ターゲット: CIPO、法務・知財部門責任者、R&Dリーダー



分断された手作業の限界から、全ライフサイクルを貫く統合環境へ

BEFORE - THE FRAGMENTED ERA



従来の知財業務は、工程ごとに異なるポイントソリューションに依存し、手作業によるデータの引き継ぎと再解釈が不可避であった。

AFTER - THE CONNECTED THREAD



生成 AI の飛躍的進化を基盤とし、発明の創出から権利行使までの全コンテキストが自動的に後続工程へ引き継がれる単一のデータプラットフォーム。

設立2年で約6,500万ドルを調達し、世界のトップイノベーターを牽引

累計資金調達額

約6,500万ドル

2026年4月
(Series B)

\$40M
(SignalFire主導)

2025年2月
(Series A)

\$14M (Next47主導)

2024年4月
(Seed)

\$4.5M (Gradient
Ventures主導)



Am Law 100（米国ト
ップ法律事務所）の
40%以上が導入



顧客基盤が半年間で
18倍に急成長

導入企業群

Canon Asahi**KASEI**  **RIVIAN**

XEROX **Panasonic** 

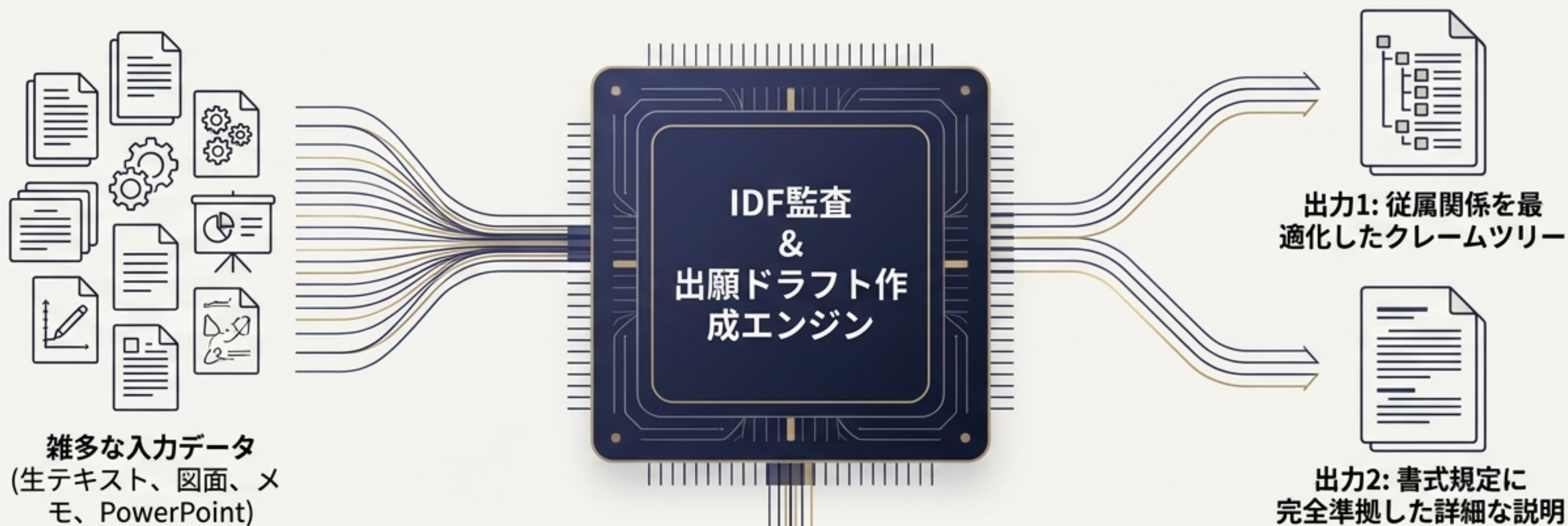
この異例の資本形成は、高度なLLM応用の市場規模と、Patlyticsの圧倒的なプロダクト・マーケット・フィット(PMF)を証明している。

前工程の解釈が次工程の知能となる「コンテキストの自動引き継ぎ」



「個別の作業ツール」ではなく、「特許の一生を記憶するAI」。
人間による重複作業や認識の齟齬を極限まで排除する。

コア・モジュール解剖①：生データから規定準拠ドラフトへの自動変換

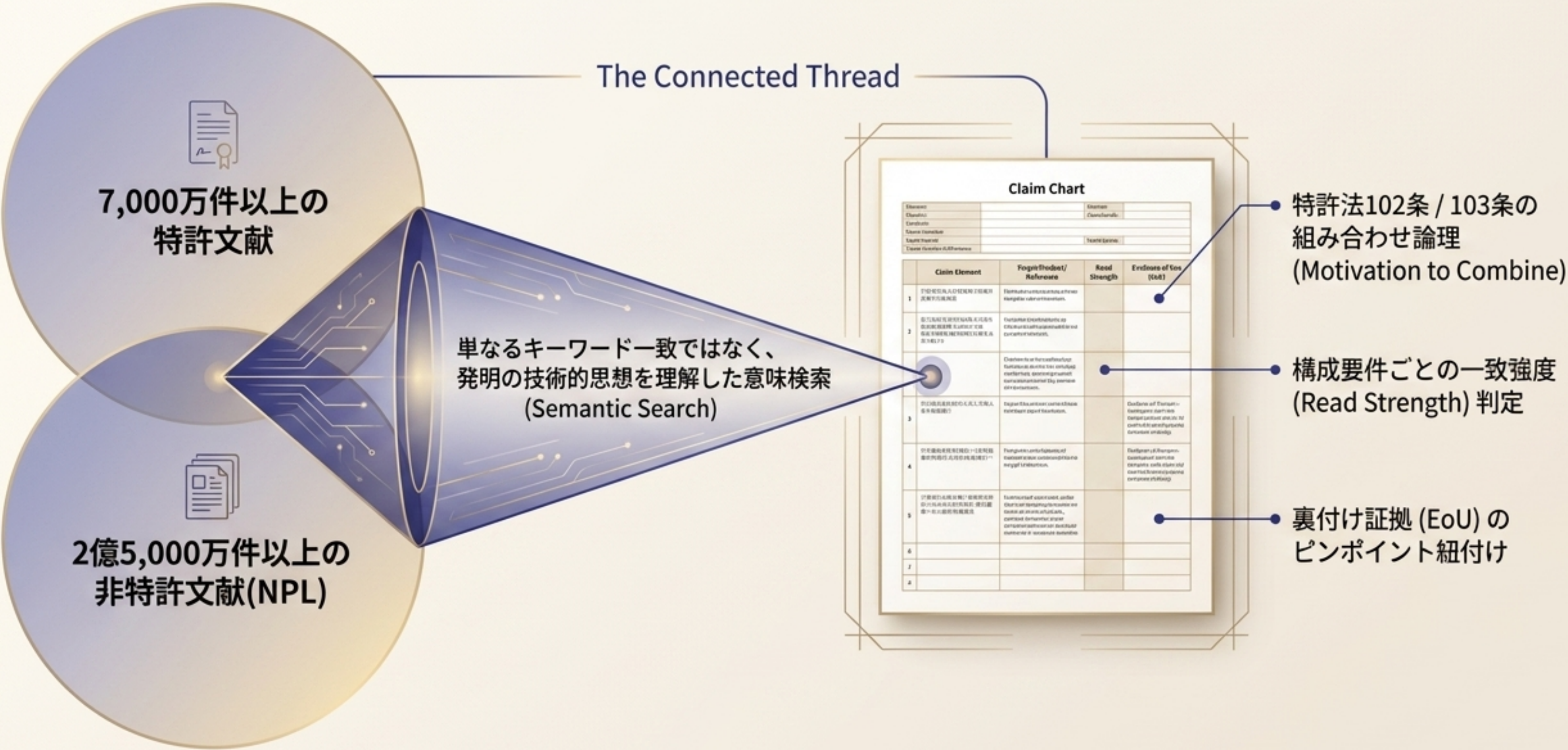


1
拒絶理由通知の
アップロード

2
審査官の拒絶論点・引例
特許を自動構造化

3
対話型AIエージェントによる反
論ロジック・補答案の即時作成

コア・モジュール解剖②：広大な海から確証を釣り上げる意味検索とマッピング



企業の知財・法務部門が求める絶対的なガバナンスと透明性

インフラストラクチャの堅牢性

- 国際認証の取得
(SOC 2 Type 2,
ISO 27001, ISO 42001)
- AES-256規格によるデータ
暗号化

データの完全隔離 (ゼロ・トレーニング)

- 顧客データは完全に隔離
された環境で処理
- AIモデルの再学習や他社へ
の流用には「一切使用されない」
ことを保証



Connected Thread

データの完全隔離 (ゼロ・トレーニング)

- 顧客データは完全に隔離
された環境で処理
- AIモデルの再学習や他社
への流用には「一切使用
されない」ことを保証

出力の透明性と ハルシネーション排除

- すべての解析結果に対する
「原文へのピンポイント引用」
- 色分けされた「信頼度指標
(Confidence Indicators)」
によるファクトチェック支援

グローバル法域のネイティブ接続と JPO（日本特許庁）法理への適応



機械翻訳によるニュアンス欠損を防止する「Side-by-Side」対訳機能と、段落レベルでのピンポイント引用ナビゲーション。

各国の法理に準拠：EPOの分割出願（EPC第76条）や、JPO固有の拒絶理由ロジックに基づいた正確な分析アルゴリズムを搭載。クロスボーダー特許戦略の摩擦を解消。

日本企業導入事例：旭化成が確立した「ハイブリッド調査ルート」

ターゲット課題: 多岐にわたる技術分野での他社製品の侵害疑義 (EoU) 調査

Before:
外部依存と手作業

人力でのWeb検索
+
外部法律事務所への依頼

所要時間: 数週間～数ヶ月/
多大な時間と高額なコストが発生

Connected Thread

After: Patlytics
ハイブリッドアプローチ

公開WebからのAIクロール情報

+

自社独自の他社製品解析
データ・内部知見

所要時間: わずか数時間

AIが多角的なアプローチで侵害疑義製品へ瞬時に到達。知財専門家を単純作業から解放。

劇的な投資対効果（ROI）と高付加価値業務へのリソース転換

Metrics Dashboard

**80～90%
削減**

全体的なプロジェクト処理時間の短縮。出願書類作成においては1件あたり最大15時間の節約。

**\$30,000+
削減 / 件**

従来、弁護士報酬として要していた訴訟用・ライセンス用クレームチャートの作成費用を数分の一に圧縮。

**\$1,000 -
\$5,000
削減 / 件**

侵害検知レポート作成における直接的な人件費・調査委託費の削減。

「調査・照合作業からの解放」により、知財人材がライセンス交渉、権利行使、法務戦略などの【高付加価値業務】に集中できる組織体制の構築。

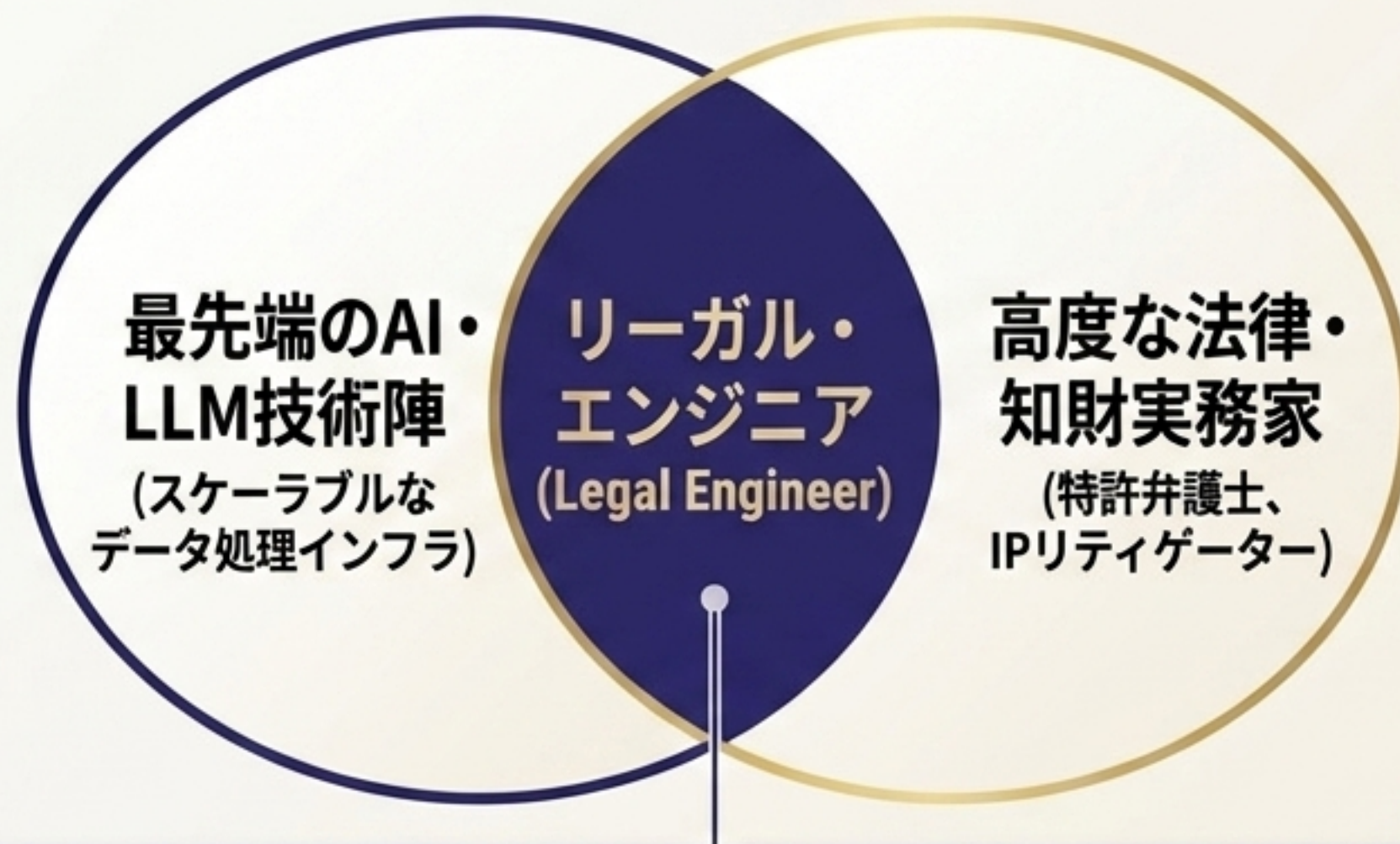
競合環境における独自のポジショニング

比較軸	伝統的知財DB	出願特化型AI	Patlytics (Category Leader)
起点・コア能力	巨大データベースと 文献検索	出願ドラフト作成 の効率化	✓ 特許インテリジェンス + 全ライフサイクル統合
ワークフロー範囲	検索・分析（作成・ 訴訟は限定的）	出願・拒絶理由 対応が中心	✓ 出願～拒絶対応～侵害検知 ～訴訟～剪定までシームレス
AIアーキテクチャ	検索アルゴリズム中心 + 後付けAI	生成LLMメイン	✓ 根拠引用型AI + マルチモジュール統合
クレームチャート	手動エクスポート・ 簡易生成	限定的	✓ 証拠引用（EoU）付き自動 生成・高度カスタマイズ

Connected Thread

競合が「出願」から参入する中、Patlyticsは最も難易度の高い「訴訟防御・侵害分析」から構築を開始。
これがAm Law 100の厚い信頼を早期に獲得した最大の理由である。

品質を担保し、強力な参入障壁を生む「リーガル・エンジニア」体制



- 元USPTO審査官や大手法律事務所出身者で構成。
- 法律実務に則したワークフローの調整とAI出力の質的評価（QA/QC）。
- プロダクト開発陣への直接的なフィードバックループ。

単なるソフトウェアの提供ではなく、「実務感覚に完全に符合した法理的アウトプット」を補償する人的体制が、他社の追従を許さない防御壁となっている。

次なる成長戦略：Series B 調達資金 (4,000万ドル) によるロードマップ

協働の再定義

外部法律事務所と企業知財部が同一画面上でリアルタイムに推敲・変更履歴を追跡できる「AIネイティブ・コラボレーション・スイート」。

自律化

事前リサーチやポートフォリオの一次仕分け（トリアージ）を自律的に遂行する「ドメイン特化型AIエージェント」の実装。

領域拡張

アミノ酸配列、遺伝子配列、複雑な化学構造式の解析・出願に対応する製薬・バイオ・材料化学領域への展開。

グローバル知財戦略における「必須インフラストラクチャ」へ

The AI-Native Paradigm

単なる検索や文章作成補助の域を超え、無形資産のライフサイクル全体を統合する唯一のAIネイティブ・プラットフォーム。

Proven Global ROI

Am Law 100のトップ法律事務所や旭化成等のグローバル企業が実証する、劇的なコスト削減と品質向上の両立。

The Ultimate Moat

厳格なセキュリティ、ハルシネーション排除の透明性、そして実務家（リーガル・エンジニア）による品質担保体制。

Connected Thread

無形資産が企業価値の核心を占める現代において、Patlyticsの導入は単なる「業務効率化」ではない。それは、次世代のグローバル競争を勝ち抜くための「戦略的優位性の確保」そのものである。